



第7号(平成26年4月22日)

店舗スタッフと山岳遭難現場をつなぐ
特別隊員

島崎 三歩 の「山岳通信」

～ゴールデンウィーク中の遭難事故について～

◇近年、この期間中の遭難事故で多くの人命が失われています。

- ・平成25年 27件(遭難者34人 死者・行方不明者10人)
- ・平成24年 15件(遭難者21人 死者・行方不明者9人)
- ・平成23年 21件(遭難者28人 死者・行方不明者10人)

◇雪崩に巻き込まれたり悪条件の中で低体温症になり死亡する事故が目立ちます。

◇都市部では春であっても信州の山岳は条件次第で冬山同然となります。

◇条件に応じた体力、技術、装備、知識、経験が必要で、安易な入山は危険です。

この通信はお客様と接する登山用品店舗スタッフの方に、長野県の山岳地域で発生した遭難の代表的な事例を随時お伝えし、「安全登山のアドバイス」のきっかけとしていただくため、発行しています。

平成26年2月16日～平成26年4月12日まで

ケース1

3月16、17日 北アルプス五竜岳 45歳男性(東京都)行方不明
23歳女性(東京都)負傷

五竜岳から五竜山荘方面に下山中、男性1人が滑落し、同行者は凍傷と低体温状態で行動不能。救助要請を受け、県警察ヘリが稜線付近にいた同行者を救助し、松本市内の病院に収容。滑落した男性は行方不明。

*春は天候が急変します。吹雪の際に行動すると思わぬ事故につながることから、早期にビバーク体制をとるなど慎重な判断が必要です。

ケース2

3月22日 御嶽山 32歳男性(埼玉県)滑落し死亡

8合目付近で滑落したと通報を受け、県警察ヘリで救助して松本市内の病院に搬送したが、出血性ショックによる死亡を確認。

*春山でも天候や気温の状態では雪面が滑りやすくなっているため、アイゼンやピッケルを使用した確実な歩行技術が必要です。

ケース 3

3月22日 八ヶ岳連峰 64歳 男性（兵庫県） 転落し負傷

2人パーティーでアイスクライミング中にスクリュースが抜け、滑落し右足骨折。県防災ヘリで救助し茅野市内の病院に収容。

*アイスクライミングは特殊な登山技術や装備が必要です。

ケース 4

3月29日 八ヶ岳連峰東天狗岳 69歳 男性（三重県） 滑落し死亡

2人パーティーで登山中にバランスを崩し滑落したと救助要請があり、県警察ヘリにより救助して松本市内の病院に収容したが、死亡を確認。

*冬季は雪上スリップ、落雪、雪崩等の危険が高まります。日々刻々と変化する雪質に適切に対応する判断力、技術が必要です。

ケース 5

4月7日 戸隠連峰 68歳女性（長野県） 転落し負傷

雪上で足を滑らせて滑落して負傷。救助要請があり、県警察ヘリで救助して長野市内の病院に収容。

*残雪期は道が分かりづらくなります。知らないルートは単独では行かないようにしましょう。

ケース 6

4月12日 八ヶ岳連峰赤岳 28歳 男性（愛知県） 転倒し負傷

頂上付近でアイゼンを引っかけて転倒負傷し救助要請。県警察ヘリにより救助して茅野市内の病院に収容。

*アイゼンを引っ掛け、転倒したり滑落する事故が多いので、慎重に行動しましょう。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-toursim@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝